

# CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)ダイヤパレス笹口けやき通りB棟 新潟県新潟市中央区笹口1丁目26-14 商業地域、準防火地域 集合住宅 2018年12月 竣工 1,234.55 m <sup>2</sup> 424.77 m <sup>2</sup> 5,772.09 m <sup>2</sup> 地上16F RC造 実施設計段階評価 2017年6月19日	
---	--	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{55.8}{39.5} = 1.4$
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★☆☆ B: ★★☆☆☆ C: ★☆☆☆☆		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目名	コード	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.3		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.9		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	4.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	LR2.1.1	3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 住宅性能表示制度の劣化対策等級3を確保し長寿命化の取組みに配慮した。
- 住宅性能表示制度の省エネ等級4を確保し断熱性能の向上に努め、建物の熱負荷抑制に配慮した。
- 節水型の便器やリサイクル資材を採用し資源循環の取組みに配慮した。

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイヤパレス笹口けやき通りB棟	階数	地上16F
建設地	新潟県新潟市中央区笹口1丁目26-14	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	225 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 竣工	評価の実施日	2017年6月19日
敷地面積	1,235 m <sup>2</sup>	作成者	勝沼幸男
建築面積	425 m <sup>2</sup>	確認日	2017年6月19日
延床面積	5,772 m <sup>2</sup>	確認者	勝沼幸男



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	184 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )
②建築物の取組み	138 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )
③上記+②以外の	46 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )
④上記+	0 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.2**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	周辺には公共施設や太陽公園があり それらの環境に配慮するとともに、共同住宅という用途上 室内環境にも配慮した。	
その他	0	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
シックハウス等の原因となる化学汚染物質の発生を低減するように配慮した。また、住戸の遮音性にも配慮し 遮音等級 T-2のサッシを採用した。	屋外に設置する設備機器等はメンテナンス性に配慮した。また、住宅性能表示制度の劣化対策等級3を確保するとともに、設備配管についても長寿命のものを使用するように配慮した。	透水性舗装等により敷地内温熱環境の向上を図った。また、共同住宅という用途上 特に防犯性にも配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
住宅性能表示制度の省エネルギー対策等級4を確保し 断熱性能の向上を図るとともに、共用部においては高効率の照明器具を採用して 省エネルギーに配慮した。	節水型の便器の採用により水資源保護に配慮した。また、有害物質を含まない材料を使用し環境負荷低減にも配慮した。	敷地外に与える影響を検討し、駐車場の確保など出来るだけ周辺環境に影響の出ないように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される